

社協だより

194号



いばら



あなたと私は、
赤い羽根でつながっている。

「あの人」を支えたい。困ったときはお互いさまだから。

その小さな思いが、街角から、ネットから、地域の住民から集まってくる。

意志あるお金は「あの人」を支えるための力となる。募金をする人、活動をする人、支えられる人。

みんな、赤い羽根でつながっているのですね。

意志あるお金、募金のチカラ。

赤い羽根共同募金



スマホからも、
募金できます。



みんなでちよつとづつ助け合う

赤い羽根をシンボルとする募金活動

戦後間もない昭和22年（1947年）に「国民たすけあい運動」として市民主体の民間運動から始まった共同募金。「じぶんの町をよくするしくみ」として、井原市で集められた募金は井原市のために使われています。

『共同募金』昔ばなし

募金箱のはじまりは、はるか昔のスイスの山深いまちにあります。

その日に食べる物もない人たちがいて、教会の牧師さんは心を痛めていました。ある日、牧師さんは道端に箱を置きました。その箱には、「与えよ 取れよ」と書かれていました。「食べ物足りていて、誰かに分け与えることができる人は、箱に食べ物やお金を入れなさい」「今日食べる物にも困っている人は、箱から食べ物やお金をもらって行きなさい」

この箱は、現在の募金活動につながる3つのキーワードで成り立っていました。

①【匿名】決められた誰かを助けるのではなく、助けを必要とするみんなのために行われたのです。

入れる人も、もらう人も、自分が誰なのかを明らかにしなくてもかまいません。

②【任意】入れる人も、もらう人も、参加するのは自由です。

③【信頼】道端に箱があれば、嘘をついて持って行く人や泥棒がいるかもしれません。しかし、まちの人たちがこの箱の意味を理解して、本当に必要な人のためのものだとお互いに信頼し、わかり合っていたからこそ、成り立ったしくみでした。



『共同募金』のなぜ

その①「いつだって赤色なの？」

赤い羽根は、勇気とよい行いのシンボルだからです。アメリカの先住民は、いろいろな色の羽根飾りを頭などにつけていましたが、

羽根には色によって意味がありました。勇気のある行いや、よいことをした人が、赤い羽根をつけていたと言われています。

その②「いつから始まったの？」

日本の共同募金は、今から70年以上前、太平洋戦争が終わって、焼け野原でたくさんの人たちが苦しんでいるなかで、助け合いの運動として始まりました。最初は、戦争で家や家族を失った子どもたちのために寄付が役立てられていました。誰もが苦しい生活をしていましたが、第1回目の募金運動では、6億円近い寄付が寄せられました。現在の貨幣価値にすると、1200億円に相当すると言われていています。

その③「じぶんのじいに使われるの？」

私たちの住むまちで、助けが必要な人たちのために使われます。井原市では、障害のある人が昼間に活動する作業所、子どもたちを

預ける保育園、福祉活動をするボランティア団体などに助成することで、活動を応援しています。また、制度と制度のすき間にできる課題など、臨機応変に対応するしくみづくりにも使われています。

その④「じいじに募金をするの？」

助けが必要な人たちのために、いろいろな団体が活動しています。活動に必要なお金を一人でするのは大変なことですが、みんなで少しずつ募金をすれば、より多くのお金が集まって、たくさんの方が活動に関わることができそうです。

みんなが暮らしやすくなるお手伝いをするために、みんなでちよつとづつ

助け合う、それが『赤い羽根共同募金』

です。



その⑤「ふのふの」

募金が集まるの?」

毎年、10月1日から全国一斉に募金活動が始まり、井原市では約800万円の募金が集まります。みなさんから多くのご協力をいただき、本当にありがとうございます。

その⑥「日本以外の国にも

あるの?」

共同募金は、世界43の国などで行われています。元々は1913年にアメリカで始まりました。英語では、コミュニティ・チェストといい、地域の貯金箱という意味です。

その⑦「赤い羽根以外の色は、

なんの募金?」

緑の羽根は森林づくりの活動、青い羽根は海で事故にあった人を助けるため。また、最近では、乳がん啓発のピンクリボン、子どもの虐待を防ぐオレンジリボンなど、リボンをシンボルとした募金活動も増えてきています。

災害ボランティア支援

各都道府県共同募金会では、大規模な災害が起こった場合に備えて、共同募金額の一部（3%）を災害等準備金として積み立てています。

大きな災害が発生した場合には、都道府県域を超えて全国共同募金会が災害準備金を拠出しあい、被災地における災害ボランティア活動を支援しています。

災害等準備金は、災害ボランティアセンターで必要な機材、活動に必要な車のリース費用等に充てられています。



【パソコン整備】

井原手話サークル



聴覚障害者が119番・110番通報できるよう、消防署職員による緊急メール教室を開催しました。パソコンとプロジェクターを使うことで、目で見る工夫ができ、今後の活動の幅がひろがりました。



以前の車よりも利用者さんが多く乗れるようになったため、送迎や移動がスムーズになり、とても助かっています。

【利用者送迎車両整備】
こだま園東江原フック



カメラを設置することで、犯罪抑制効果が期待できるので、園児の安全確保ができ、職員の安心感も増しました。

【防犯カメラ設備設置】
いずみ保育園

「共同募金」ありがとう

※募金のつかいみちの詳しい内容や金額は、《赤い羽根データベースはねっと》で公開しています。<https://hanett.akaihane.or.jp>

荏原 地区社会福祉協議会

地区社協紹介 No.3

① ずばり！我が地区はこんなところ

戦国の魁「北条早雲」生誕の地

② 地区での活動

- ・給食サービス活動
- ・友愛訪問活動
- ・ご近所福祉ネットワーク活動
- ・早雲カフェ（赤羽根カフェ）
- ・慶弔事業

※コロナ禍により現在休止中の活動があります。（sounebara.com）

③ 活動への思い

「生きているということは誰かに借りをつくること。
生きていくということはその
借りを返していくこと。」

④ こんな地区を目指します！

“誰もがふと笑顔になれる荏原”

地区人口：2,320人
（令和3年7月末）
福祉員人数：50人
サロン数：4サロン



「わたしのモットー」
ハチドリのひとつずつ

荏原地区社会福祉協議会
会長 藤井 敏夫 さん

《プロフィール》

- ・1950年12月笠岡市金浦生まれ
- ・2013年4月荏原地区社会福祉協議会会長に就任
- ・現在、荏原公民館長、岡山県青少年相談員も務める

必要としている人へ届けたい！ ～フードバンク活動～



【ご提供していただく食品への注意事項】

- 1) 賞味期間が明記されているもの
- 2) 賞味期間がまだ1カ月以上残っているもの
- 3) 未開封であるもの
- 4) 破損で中身がでていないもの
- 5) 米・農作物は常識の範囲内で古くないもの
（冷暗所で保管されたもので虫などいないもの）

【フードバンク設置場所】

- ・井原市総合福祉センター内 井原市社会福祉協議会
- ・井原市老人福祉センター内 “ 芳井支所
- ・井原市役所美星支所内 “ 美星支所
- ・就労継続支援B型事業所 こだま園芳井ふれあい作業所

※フードバンク活動は、井原おもいやりネットワークによる活動です。

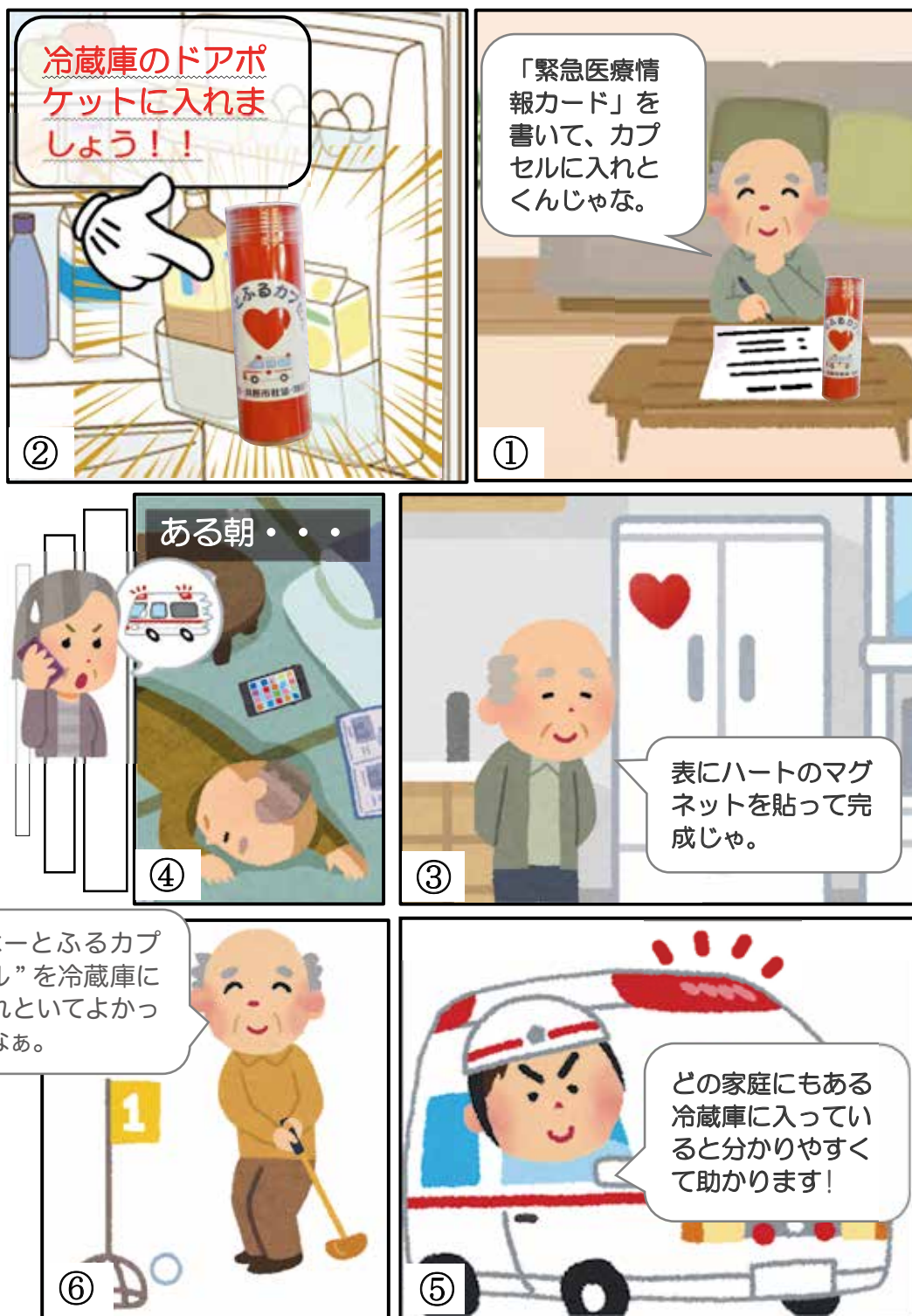
「飽食の時代」といわれる現在ですが、豊かだと思われている日本でも、食べ物に困っている人はまだまだ存在しています。新型コロナウイルス感染症の影響によって、困る人はさらに増えると予想されます。フードバンク活動は、賞味期限内の食品を有効に活用し、食

品ロスの削減を図るとともに、「足りている人」と「足りなくて困っている人」を食べ物を通してつなぐ活動です。

※生活用品（ティッシュ・トイレットペーパー・紙おむつ等）も受け付けています。

『もしも自宅で倒れたら…』

くあつてよかった「はーとふるカプセル」く



ポイント



もしもの時に備えて、「はーとふるカプセル」に緊急連絡先やかかりつけ医などを記入した「緊急医療情報カード」を入れ、冷蔵庫のドアポケットに保管します。

(※消防署と連携をとり、緊急時に対応できるようにしています。)

どのご家庭も同じ場所に入れておくことで、救急隊員は探すことなくカプセルを見つけたことができ、あなたの大切な情報を的確に把握することができます。

ご希望の方は、地区社会福祉協議会長・民生委員にご連絡ください。

ご寄附ありがとうございました

令和3年6月16日・令和3年8月15日（敬称略）

◆香典返し・満中陰志

亡母 上出部町 間所恵子
亡父 西江原町 藤岡 優
亡夫 高屋町 渡辺好美
亡祖母 下出部町 藤井清志
亡母 木之子町 藤井正幸
亡母 上稲木町 塩飽孝幸
亡父 大江町 崎谷祐子
亡父 木之子町 谷井利光
亡祖母 門田町 上野 崇
亡父 大江町 猪原竜史
亡母 木之子町 吉脇由美子
亡父 上出部町 安井清人
亡夫 北山町 渡辺照美
亡母 小田郡矢掛町 渡邊倫子
亡夫 芳井町 匿名
亡母 芳井町 篠瀬 三宅裕文
亡母 芳井町 吉井 藤井 靖
亡母 芳井町 下嶋 森本忠正
亡父 芳井町 吉井 妹尾和道
亡母 美星町 黒忠 三宅英夫
亡母 美星町 黒木 片山勝士
亡父 美星町 大倉 東田義男
亡母 美星町 三山 菊池卓士

◆一般寄附

亡姉 美星町大倉 原田和喜子
井原町 佐藤千代子
備陽美術協会
芳井町花滝 丸尾典子

ご寄附のお願い



地域の福祉を推進する井原市社会福祉協議会の活動は、皆さまからご協力いただいている会費や共同募金などによって支えられています。

その他にも、個人の方をはじめ、法人・団体等、多くの方から善意のご寄附が寄せられています。

いただいた寄附金は、地域の福祉活動を推進していく事業の

井原市社会福祉協議会
新役員

会長	鳥越愛子
副会長	猪原慎太郎
副会長	大月仁志
常務理事	佐藤和也
理事	金高常泰
岡田捷夫	
笠原正広	
柳原英子	
井上智恵子	
中島知子	
中村裕文	
前原	

監事

大きな支えとなっており、地域福祉の更なる向上を目指し、ボランティア活動・福祉事業・啓発活動などに大切に活用させていただきます。

年間を通じて皆さまのあたにかいご寄附をお待ちしております。ご協力よろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】

井原市社会福祉協議会
総務係 ☎六二一四八四

ふれあい福祉相談センター

【予約先】井原市社会福祉協議会 ☎62-1484

相談	内容	日時
ふれあい福祉相談	日常生活上の心配ごとや悩みごと等の相談	月～金曜日 8:30～17:00
法律相談 要予約	法律上の難しい問題の相談 1件30分以内 (財産・相続・金銭貸借・境界問題等) ～新型コロナウイルス感染の拡大状況により、中止する場合があります～	10/5 (火) 13:00～16:00 10/26 (火) 13:00～16:00 11/9 (火) 13:00～16:00 11/16 (火) 10:00～15:00
ひきこもり 専門相談 要予約	専門家によるひきこもりに関する相談 ～新型コロナウイルス感染の拡大状況により、中止する場合があります～	10/27 (水) 10:00～12:00
療育相談	就学前の子どもへの心配や悩みごとに関する相談	月～金曜日 8:30～17:00
介護相談	家庭介護や各種福祉サービスに関する相談	月～金曜日 8:30～17:00
金銭管理等 支援相談	福祉サービスの利用や日々のお金のやりとりの不安や悩みの相談	月～金曜日 8:30～17:00
福祉貸付相談	世帯の生活の安定を図るための資金貸付の相談	月～金曜日 8:30～17:00

※相談は無料で秘密は厳守します。

(祝日は除く)